



本校は、令和 8 年度に創立 80 周年を迎えます

〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町4-219

TEL 048-641-0459

FAX 048-645-4584

E-mail sakuragi-j@saitama-city.ed.jp

「心の声に気付くとき」

～観音堂の風景から、「とらわれている自分」に気付くまで～

校 長 森角 由希子

7月1日から3日まで、3年生が奈良・京都への修学旅行に参加します。暑さが心配されますが、歴史と文化に触れる貴重な機会です。せっかくの体験ですから、安全を第一に、多くの学びを得てきてほしいと願っています。

さて、我が家では墓参りの際、共同墓地にある観音堂にお参りするのが習慣となっています。毎回何かを願うわけではありませんが、日々の暮らしが送れていることへの感謝を含めて、静かに手を合わせています。

何年も前のことになりますが、共同墓地の総会資料に目を通した際、会計報告の「浄財」の金額がふと気になりました。疑問に思い、母に話したところ、「それは自分の気持ちでさせていただいたもの。手から離れたものに、執着する必要があるのか？」と返され、思わず問答のようなやりとりとなりました。「トラブルや事件性がなければいいのだけれど」と案じる一方で、「きっとそうに違いない」と考えてしまう自分がおり、少々“ミステリー思考”に偏っていたことに気付きました。

「観自在」という仏教の言葉があります。「迷いの執着から解放された境地にあり、事物の姿を自由自在に正しく見きわめること」(日本国語大辞典 より)とされています。私たちはつい「我」というフィルターを通して物事を見てしまいがちですが、相手の立場や社会的背景など多角的な視点から物事を見られるようになると、「こうあるべき」から「こういう考え方もあるんだ」へと思考が変わっていくことに、気付き始めました。大切なのは、自分が何かにとらわれているという状態に“気付く”こと。それによって少しずつ執着から離れていけるのではないかと考えています。

3年生が訪れる奈良・京都には、観音菩薩像が奉安されている有名なお寺が多くあります。たとえば、法隆寺、東大寺二月堂(三月に行われる修二会〈お水取り〉で知られる観音信仰の中心的な場所)、三十三間堂、清水寺、泉涌寺などが挙げられます。観音菩薩は仏教における慈悲の象徴であり、すべての人の苦しみの声を聴き、それに応じて救いの手を差し伸べてくださる存在とされています。班別行動などで訪れるチャンスがあれば、そうした信仰や造形の背景に思いをはせながら、これまでの学びと結びつけて考えてみてほしいと思います。

【追記】

その後、共同墓地の観音堂を訪れてみると、防犯用のライトが設置され、賽銭箱にはさらに頑丈な鍵が取り付けられていました。少し複雑な気持ちになりましたが、今も変わらず家族で手を合わせ続けています。



＜奈良 法隆寺より＞